

鹿屋市立下名小学校 特別の教育課程の実施状況等について

1 特別の教育課程の概要

本校では、令和3年度～令和4年度、市内全小学校が文部科学省教育課程特例校の指定を受け、下述の 時数を確保し、現行の学習指導要領（外国語活動・外国語科）を踏まえて、「英語科」として先進的な英語教育の実践研究を推進しています。

英語大好きな子どもたちをイメージし、小学1年生から児童の興味・関心や理解度に合わせた英語を使って段階的に指導し、小学校6年間を通して、総合的にコミュニケーション能力の基礎を育成し、小・中一貫による英語教育の推進を図ることを目指しています。

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年 (教科)	6 年 (教科)	総時数
年間時数	20	20	35	35	70	70	250
使用する教材等	オリジナル	オリジナル	Let's Try!1	Let's Try!2	教科書 My Book Picture Dictionary	教科書 My Book Picture Dictionary	

鹿屋市の英語教育の目指す生徒像

「地球規模で様々な問題を考え、郷土の魅力を生かして、英語を使って、能動的に課題解決に向けた行動を起こす児童生徒の育成」子どもたちが英語の学習に主体的に取り組み、コミュニケーション能力を育成した結果、郷土の課題解決に貢献したり、グローバルな視点を持ち、郷土の魅力を世界に発信し、持続可能な社会の発展に貢献したりする人材の育成を目指します。子どもたち・先生方・学校・保護者・地域が一体となって、「わくわく」するような授業を一緒につくり、多文化共生社会を生き抜く「グローバル人材」の育成を目指します。

2 本校の教育目標

共に学び 共に伸びる

～子ども同士が・子どもと教師が・教職員同士が・保護者と地域と～

3 本校の令和3年度英語教育の実践について

(1) 1・2年生の取組

- 絵カードを通して身の回りにあるものや身近な生き物の英単語を知る。
- チャンツでリズムに乗って楽しく発音したり，身体表現をしたりする。
- 簡単な英語の語句を用いて誰とでもコミュニケーションを図ろうとする態度を育む。

(2) 3・4年生の取組

- 簡単な英語の会話文を知り，チャンツに合わせて発音や話し方のリズムに慣れ親しむ。
- アルファベットそれぞれが持つ名前や発音を知る。
- 体験的な活動を通して簡単な英語の会話を使って積極的にコミュニケーションを図る態度を身に付ける。

- (3) 5・6年生の取組
- 英語を用いる様々な場面にふれ、簡単な英語の会話ができるようにしたり、大体を聞き取ったりできるようにする。
 - アルファベットの大文字と小文字を知り自分の名前はもちろん、簡単な英単語を書いたり写したりすることができる。
 - 自分の考えを簡単な英文をつなげて話すことができる。
- (4) 鹿屋市各地区英語教育圏推進会議について（小中一貫教育）
- 中学校区内の3小1中で数年前に共通理解した「Can-Do リスト」を教育課程に入れる。
 - 「CCEを使って子ども同士が互いに認め合えるようにする」を共通実践として設定
- (5) 校内研修体制について
- 年2回英語授業について、または鹿屋市の英語教育について研修し、周知を図る。

4 特別の教育課程の実施状況に関する検証結果

(1) 自己評価（児童）の結果から

英語の授業は楽しいですか。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
楽しい	95.2%	88.8%	68.4%	53.3%	83.3%	19.0%	68.0%
どちらかというと楽しい	4.8%	11.2%	21.1%	23.3%	11.1%	52.4%	20.6%
あまり楽しくない	%	%	10.5%	16.7%	5.6%	23.8%	9.4%
楽しくない	%	%	%	6.7%	%	4.8%	2.0%

(2) 自己評価（教員）の結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
60%	40%	0%	0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述，一部抜粋）

- ・ 英語への苦手意識を早くからの取組でなくしていきたい。

(3) 保護者評価結果から

Q1 お子さんは、英語の授業が好きですか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
39%	29%	8%	3%

(4) 学校関係者評価結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
84%	16%	0%	0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。(自由記述，一部抜粋)

- ・ 英語が「学習」になる前に、楽しみながら自然に身に付けてほしい。

5 令和4年度の取組について

(1) 1・2年生の取組

- 絵カードを通して身の回りにあるものや身近な生き物の英単語を知る。
- チャンツでリズムに乗って楽しく発音したり，身体表現をしたりする。

(2) 3・4年生の取組

- 簡単な英語の会話文を知り，チャンツに合わせて発音や話し方のリズムに慣れ親しむ。
- アルファベットそれぞれが持つ名前や発音を知る。
- 体験的な活動を通して簡単な英語の会話を使って積極的にコミュニケーションを図る態度を身に付ける。

(3) 5・6年生の取組

- 英語を用いる様々な場面にふれ，簡単な英語の会話ができるようにしたり，大体を聞き取ったりできるようにする。
- アルファベットの大文字と小文字を知り自分の名前はもちろん，簡単な英単語を書いたり写したりすることができる。
- 自分の考えを簡単な英文をつなげて話すことができる。

(4) 鹿屋市英語教育圏推進会議と鹿屋市各地区英語教育圏推進会議（小中一貫教育）について

- 会議で得た情報は他の教員に積極的に知らせる。

(5) 鹿屋市小中学校英語弁論大会（小学校：スキット部門）について

- 授業内で積極的にスキットに取り組んでいき，その中で，弁論大会への出場に向けて練習を重ねる。

(6) グローカル・イングリッシュキャンプについて

- 弁論大会に参加することになった児童の保護者に経緯を説明し，児童が参加できるよう，協力をもらえるようにしたい。

- (7) 国立台北教育大教育実習生の受入による交流授業並びに遠隔授業について
- 学校の実状も考慮して参加できればと考えている。
- (8) スピーキングクエストの実施について
- 6年生については、鹿屋市が導入している「スピーキングクエスト」を活用して、学期ごとに自分の話し方について確かめる機会として取り組み、話す活動の充実を図る。
- (9) 校内研修体制（イングリッシュガイドブック・学習指導案等の活用）について
- ALT・JTE との連携の中で、授業の内容、道具の準備等、教員同士で共有できるようにする。